

## 特別養護老人ホーム「つつじ苑」

～多目的ホールをリビングルームに、4床室を個室の雰囲気（ステップ1）～

- 多目的ホールを4区画に区切り、リビングルームとする。
- 回廊に囲まれた中庭を地域交流スペースに改修する。
- 和障子のついたて等を活用して、4床室に個室的な空間を生み出す。

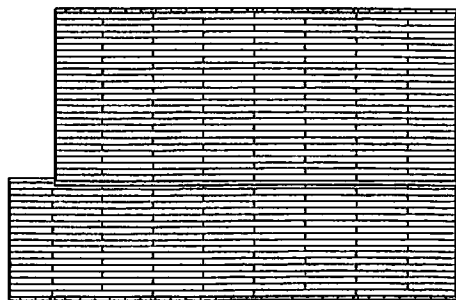
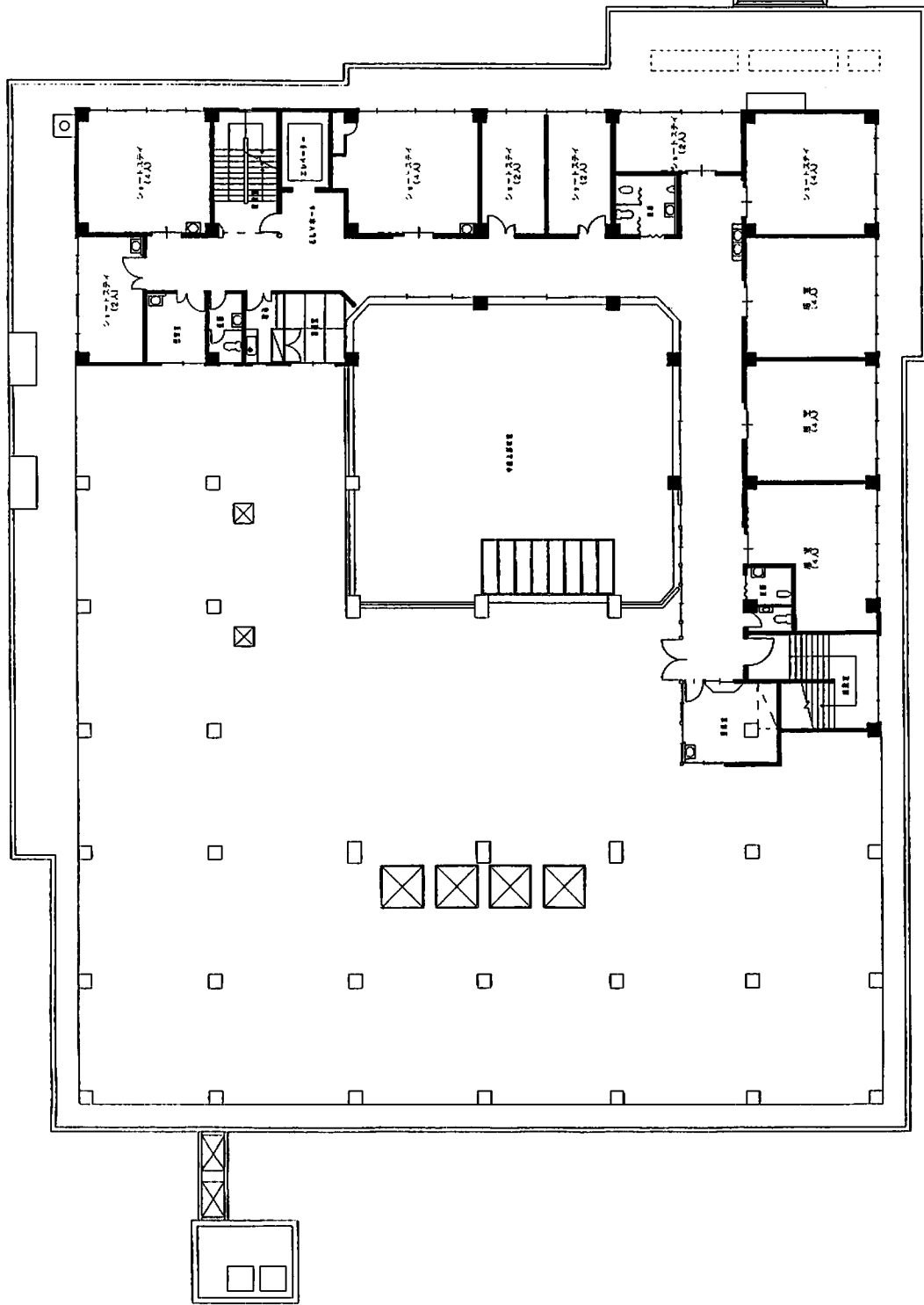


<p>ユニットケアの類型</p>	<p>ステップ I 富津市及び千葉県の同意及び許可が得られたら ステップIIに進みたい希望あり</p>
<p>ユニットケアへ取り組むきっかけ</p>	<p>平成13年3月職員共々「風の村」さんを見学させて頂き、スウェーデン式思想を取り入れた施設と介護方法に感激し当苑ももう1度今までの介護のあり方について考え直す必要性を感じ、同年7月に仙台で開催された第3回ユニットケア全国セミナーに参加させて頂き、全国でユニットケアが展開されていることを知り、今まで私達が行なって来た介護との大きな差は障害を持った老人、特に痴呆性老人への認識・理解の差なのかと反省、ハード面はいかんともしがたいとの思いの中、介護課を5グループに分け、それぞれのグループにリーダーを配置してグループ毎の行事等、らしき模倣が始まった。</p>
<p>現状において、ユニットケアを実践する上での問題点</p>	<p>(1) 人員配置の問題 当苑では現在、介護職員＋看護職員で2.45：1となっており介護職員だけだと、2.87：1となり5グループのうち1グループが4人の職員＋αの配置となっているため、なじみの関係どころか排泄・入浴・食事等の介助及びショートステイの送迎、病院受診等に追いまわされている現状である。</p> <p>(2) 回廊式を含めた構造上の問題 個人部屋もなく、リビングとなる場所は多目的大ホールと小グループ化のしにくい建物構造となっているため当苑独自の方法を考えて小グループ化に取り組む必要がある。</p> <p>(3) 以上の問題点を解決して行く為には経済的問題が大きい。</p>
<p>自分たちの考えるユニットケア</p>	<p>集団で集団を看て行く病院型の介護から一步前進して10人前後の小グループの入所者をなじみの関係となる介護者が、共同生活の感覚で寄り添うような介護をすることによって、高齢者の残された能力を活かすことにより最期まで人間らしい生活の場を提供するためのケアをして行くこと。その意味から「家庭にいるより施設にいる方が幸せだ」と思ってもらえるような人的・物的生活環境を提供して行くことが必要であると考えている。</p>

<p>必要と考えられる人員配置</p>	<p>現在は5グループに分けているが、70人施設で7ユニットに分けそれぞれに個定的職員を早番・遅番1人ずつ2名を配置するとするとこの配置割合は2.17となる。 故に看護師を除いた介護職員だけで、2.17:1の配置が必要となり更に職員の緊急時(有休等)に備え、又ユニット外の業務にも備えることを想定してプラス1名を配置すると2:1の配置が必要となると考える。</p>
<p>現在の施設配置図</p>	<p>別紙1のとおり</p>
<p>改修後の施設配置図</p>	<p>別紙2のとおり</p>
<p>居室のイメージ及び設置する設備・備品</p>	<p>2階の増築が許可されれば、2階部分に個人部屋を用意し自宅で使用されていた家具を持ち込んで頂き、家庭の延長として居室をご利用頂き、ご家族も自由に面会・宿泊をして頂きたいと思っている。(市と協議中) 1階については和障子を使用したつい立て等により、4人部屋をできるだけ個人スペースの感覚を持って頂けるように工夫とお金をかけてみたいと思っている。 もち論、遅ればせながら在宅時使用していた家具の持ち込みについても促しをするつもりであります。</p>
<p>リビングルームのイメージ及び設置する設備・備品</p>	<p>現状、1階は多目的ホールで多くの方々が一緒に食事をし、日中を過ごしておられますので、多目的ホールを4区画程度にレストランや喫茶店のような置き物で区切ってみてはどうか考えています。 又、回廊に囲まれた中庭の部分を利用して地域との交流スペースができないか考えているところです。 2階については現状は廊下等を利用して気の合う仲間ですら食事や日中を過ごしていますが、増築が許可されればユニット毎に調理、洗濯などの日常業務のできるスペースを作り、できる丈残存能力を活かした生活をしていただきたいと思いますと思っていますが、市との協議は継続中である。</p>

<p>職員に対する研修</p>	<p>職員共々ユニットケアを行なっている施設の見学をさせて頂くと共に県主催ユニットケア施設職員研修（風の村にて）にグループリーダー2名を参加させて頂き、又第4回ユニットケア全国セミナーに他のグループリーダー、介護課長、看護課長等6名が参加し全国レベルの取り組みを理解させた。</p> <p>8月6日・7日及び8月27～30日の間、痴呆性入所者3名と介護職員2名・看護師1名にてコミュニティーセンター・民家を借りての「逆デイサービス」を行い、特養での日常生活と逆デイでの日常生活での残存能力の発揮の仕方の差を体験してもらった。</p> <p>又、特養介護職員にホームヘルパーの同行訪問をさせ、個人対応の重要性を理解させようとの試みを行なった。</p> <p>9月6日、風の村研修会及び逆デイサービスの報告会（全員参加）を行い職員の意識付けを行なうと共に各グループ毎にユニットケアについての勉強会を実施している。</p>
<p>理事長等経営者に対する意識改革</p>	<p>当法人理事長、事務局長は個室ユニットケアについてのケアの重要性については理解をし、ユニットケアの精神を可能な処から少しでも実現を図りたいと考えているが、今のままの制度であれば人件費の増大・改修費の増大等の問題により経営を逼迫させるおそれがあるのではないかと不安も大きい。又ホテルコストという形でご利用者の負担が増大する制度に対しても不安を抱いている。従ってこれらの不安を解消できる制度を示し、説明の機会を持って頂くことが重要かと考えます。</p>
<p>今後のユニットケアのあり方について</p>	<p>個室を備えたユニットケアは入所者の尊厳を保ち、最期まで残存能力を活かした自立支援のための素晴らしいケアの方法だと思います。</p> <p>しかし残存能力の活かしようのなくなっている重度障害老人（例えば鼻腔栄養・胃ろう等医療ニーズの高い寝たきり老人等）がホテルコストを負担してまで、家族が個室を望むか疑問が残る。従っていきなり全室個室にするのではなく、4人室の個人部屋仕様も残した中で利用者及び家族のニーズを充分見極めて行きたいと思う。現場にいと、世間の不況の波にさらされて、一割負担さえ苦しく思っている利用者・家族が少なくないなか、この方々が1ヶ月の利用料が現状の2倍に上がることに耐えられるか心配です。</p> <p>利用者の尊厳をお護りすることと同時に家族の生活支援をして行くことの両面から考え対応の幅を考えて行くことが必要かと考えます。</p> <p>ご利用者にもご家族にも「家にいるより施設にいる方が幸せだ」と思ってもらえるようにするにはどうしたら良いか職員全員で追求して行きたいと思ひます。</p>



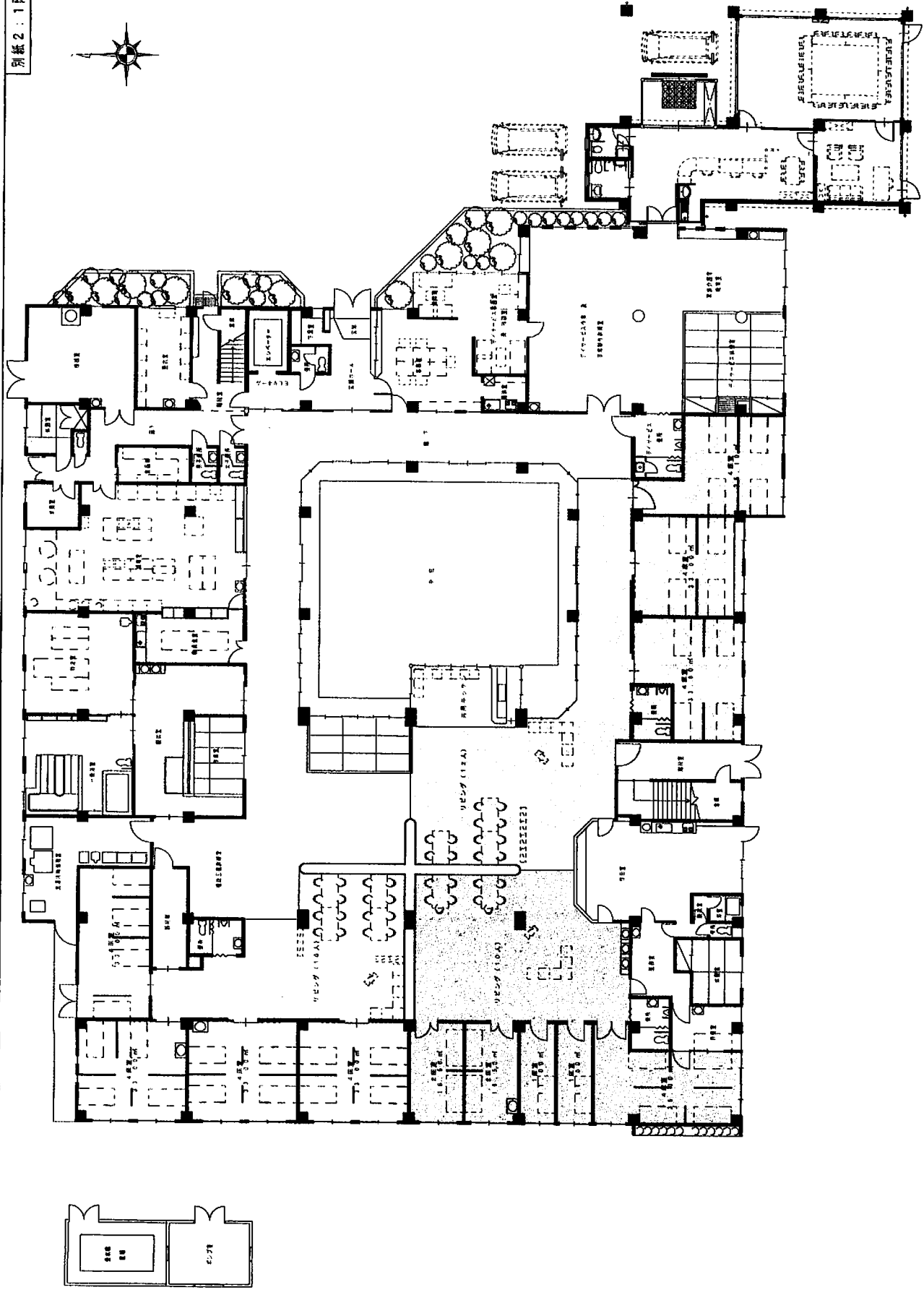


別紙1  
 UCA  
 株式会社 UCA  
 建築設計事務所

特別養護老人ホーム つつじ苑

1117号 1号  
 1117号 1号  
 1117号 1号

別紙2：1階平面図



別紙2	1
UCA	
株式会社	
建設・建設事務所	
〒1200	
東京都港区	
芝浦区	
芝浦一丁目	
1-1-1	
TEL 03-3433-1111	
FAX 03-3433-1112	
E-MAIL uca@uca.co.jp	
URL www.uca.co.jp	
特別養護老人ホーム つつじ苑	
1階平面図	
2010.11.14	
1/100	



## 逆デイサービス 実施報告書

特別養護老人ホームつつじ苑

1. 期間 平成 14 年 8 月 6 日・7 日 コミュニティーセンターにて (和室・調理室)  
 平成 14 年 8 月 27 日～30 日 近くの貸家にて 6 畳間・4.5 畳間・3 畳間・  
風呂場・台所・トイレ・  
(クーラーなし)

2. 参加者 Y. K さん 89 歳 女性 要介護度 3 老人性痴呆・問題行動 (徘徊)  
 T. M さん 87 歳 女性 要介護度 2 老人性痴呆・問題行動 (他者との係わりを好まず居室にこもりがち)  
 M. S さん 78 歳 女性 要介護度 3 老人性痴呆・問題行動 (放尿・放便・徘徊)  
 職員 寮母 2 名 ・ 看護師 1 名

### 3. 一日の流れ (8 月 7 日)

9 : 3 0	つつじ苑出発	M. S さん 便失禁をされているので着替えを勧めるが、少々不穏気味となった為そのまま車にて出発
9 : 4 0	コミュニティーセンター着	
1 0 : 0 0	室内掃除	職員が「掃除をしましょう」と声掛けをすると、ほうきを持って畳をはく方、雑巾がけをする方、座布団を干して下さる方と積極的に取り組まれる。(写真①・②・③)
1 0 : 2 0	ティータイム	掃除が終わったところで「お茶の用意をしましょうか？」と声を掛け調理室へお誘いし「湯飲みを出して下さい」とお願いすると、Y. K さんがお盆を持ってこられ「いくつかしら？」 「6 人いますよ」 「じゃあ少し余分でいいわね」と言われ、湯飲みをお盆にのせて畳の部屋まで運んで下さる。(写真④) 水羊羹を召し上がりながら、皆さん「おいしい」とニコリされる。
1 0 : 3 0		お茶を飲んで気分が変わったのか、便失禁されている M. S さんに「ズボンが汚れているので洗濯しましょうか？」と声掛けすると「どこで？」と言われ、洗い場に案内するとご自分でズボンを洗濯され外に干される。(写真⑤)
1 1 : 0 0	買い物	昼食材の買い出しにお誘いすると、笑顔で「行ってみましょうか」と答えられスーパーマーケットへ出発 若い頃、魚屋さんをしておられた T. M さんは鮮度の良い魚を選ぶ、又、あんパンが好物なのでパン売り場でパンも買

12:00	帰宅 食事づくり	<p>われる。子供がいると笑顔で話し掛けていらっしやった。</p> <p>Y. Kさん ご主人のおみやげを買うと、蒸しパンを買われる。一方、ズボンの洗濯のため留守番となったM. Sさんは、お米をとぎ、炊飯器でごはんをたいて下さる。(写真⑥・⑦・⑧)</p> <p>無事買い物から戻り、一休みしてから食事の準備に取りかかる。</p> <p>献立・・・ちらし寿司・カレーの煮付・冷奴 ナスとキュウリの塩もみ・味噌汁</p> <p>T. Mさん 昔とった杵柄で上手に魚を捌き、煮付を作って下さる。(包丁の切れ味が悪いのがご不満そうでした。) 味付けについても、調味料を入れる順番や量を指示して下さい。手ぎわ良く盛り付けまで丁寧にやったださる。</p> <p>M. Sさんは、塩もみ用のナスを上手に切って下さり、錦糸玉子も上手に焼いて下さいました。(写真⑨・⑩・⑪)</p> <p>Y. Kさん 塩もみをお願いすると「やったことないから分からないよ」と言いながらも、ボールにナスとキュウリを入れて塩をふってお渡しすると、手つき良く塩もみをされました。</p>
13:00	昼食	<p>ご自分達で作った昼食をととても満足そうに召し上がりましたが、T. Mさんはお好きなパンを食べ始め、ご自分で調理した魚を「苑長さんに食べて欲しい」と召し上がりませんでした。(写真⑫)</p>
14:00	食事終了・後片付け	<p>食事が終わると、皆さんすすんで食器類を片付けて下さいました。</p>
14:30	休憩	<p>後片付けも終わり、皆さん畳に横になったりのんびりとお過ごしになる。</p> <p>M. Sさんは、昨日買った葉書を「娘さんに出しませんか?」とお誘いすると「じゃあ書いてみるよ」と暑中見舞いを書かれました。(宛名は職員が書く)その後近くの郵便局まで投函にいかれる。(写真⑬・⑭)</p>
15:30	おやつ	<p>T. Mさんに、スーパーマーケットで買ってきたスイカを切って下さるようにお願いすると、切って下さり「甘くておいしい」とほおばるように召し上がる。</p> <p>Y. Kさんもスイカがお好きなようで、「もったいないわ」と赤い部分がなくなるまで食べていると、T. Mさんが「こっちを食べなさい」とY. Kさんに手渡して下さい。</p>
16:00	帰苑準備	<p>座布団を片付けて下さる。(写真⑮)</p> <p>「今日は歩いて帰りましょう」と声をかけるとY. Kさんは</p>

16:30	帰 苑	<p>「帰りたくない」と動こうとせず、M. S さんが迎えにきて下さるが頑として動かず、職員が促したが抵抗されるため車で帰ることとする。</p> <p>M. S さんは、田んぼや小学校等の風景を楽しみながら無事歩いて帰苑される。</p> <p>T. M さんは職員と2人、車でジャスコに寄り、人が大勢いることに驚かれ、若者を見ると「あの人えらい格好しとるなあ」小さな子供が通り過ぎると「かわいいねえ～」と職員に話しておられた。</p> <p>苑に着き、「おかえりなさい」と迎えられると笑顔を見せ、Y. K さんは、スーパーで買った蒸しパンを持って、ベット上で生活されるご主人の所へ行き、しばらくお二人でお話をされていました。</p>
-------	-----	--

#### 4. 職員の感想

苑では時間に追われての仕事が多いが、逆デイではお年寄りのペースに合わせて無理なく様々なことが行えました。話をゆっくり聞いて差し上げることによって、ご利用者の若い頃から培ってきた人間性を理解することも出来るように思います。

苑ではトイレ誘導など時間に追われて「こなす」という感じで対応しているが、それは「生活の場」には合わないと思う。食事やお風呂も食べたい時、入りたい時にできると良いと思う。逆デイのような少人数だと、あたり前のことがあたり前にできると思った。また、買い物など外出時には1対1の対応が安全で安心である。お年寄りから学ぶことが沢山ありました。1対1で接することで、お互いに心を開いて下さるような気がします。ご利用者の方々一人一人の意外な一面を見ることができ、得意とする分野のあることに気づきました。料理をしたり、掃除をしたり、今までの生活習慣を大切に今後の活動に活かしていければ良いと思いました。

スタッフ同志では、苑に戻ってからご利用者の様子を「今日はこうだったよ」など話し合い、少しの変化を見て報告しあう機会も増えました。忙しい業務の中で、毎日仕事をこなすのが精一杯になってしまっていますが、改めてご利用者お一人お一人とゆっくり関わりあうことの大切さを知ったような気がします。

家庭的な環境でふっとうにお茶を飲んだり、料理をして一緒にごはんを食べたり、手紙を家族に書いたりしていく中で、ご利用者同志の人間関係も少しずつできていたようでした。

私たちスタッフは、ご利用者の方々のこれまでの生活習慣を大切にしながら、より家庭的で社会・地域とのかかわり合いがあるような環境を提供し、そこで生活できるようにサポートしていくべきだと思いました。

最後に、M. S さんが書いた葉書に対する、ご家族の返事を紹介させていただきます。(写真⑩)